



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

2016年度 第2回授業の報告

日時 2016年7月9日(土) 14:00~16:00 / 場所シルク博物館

7月19日「子ども大学よこはま」の第2回目の授業をシルク博物館にて開催しました。
出席した“学生”は、全部で54人でした。学年別内訳は、6年が9人、5年が25人、4年が20人です。

プログラム

<第2回授業>

「のぞいてみよう シルクの世界」

坂本 英介 (さかもと えいすけ) 先生
(シルク博物館館長)

- ・映画「かいこ」と坂本先生のお話
- ・糸繰(く)り・はたおり体験
- ・シルク博物館の見学



【シルク博物館】

1959年、シルク博物館は横浜開港100年記念事業として、開館しました。
シルクの歴史にまつわる展示や、シルクの科学・技術、シルク製品を展示しています。
また、マユから真綿(まわた)を作ったり、絹糸で組みひもを編むワークショップも開かれています。



はたおり体験



館内見学

授業後のアンケートから

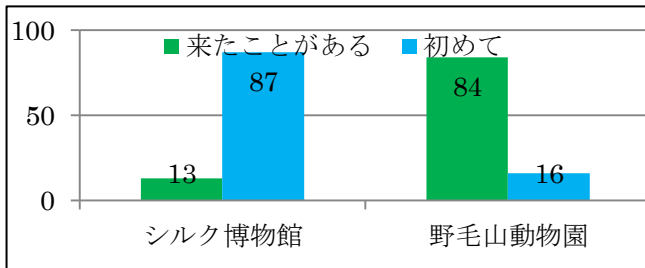
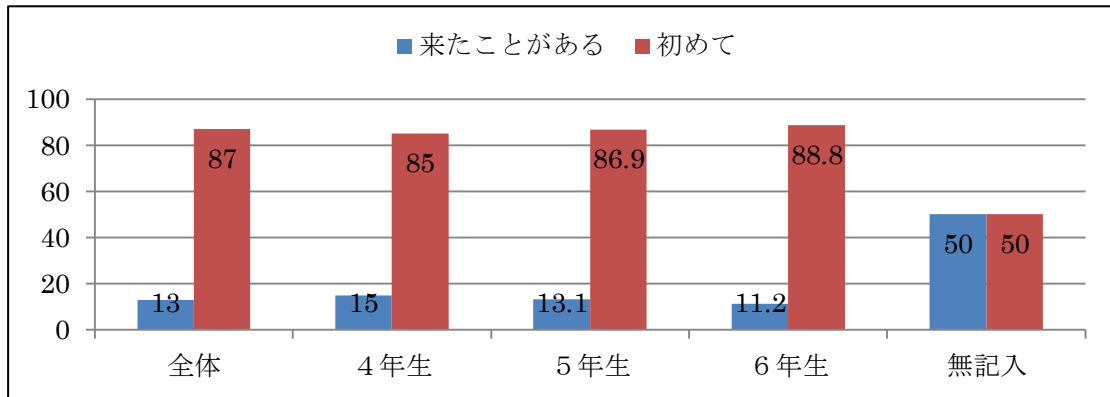
“学生”のアンケート回答から

今回の見学・体験授業に出席の54名全員が提出してくれました。

学年別構成は4年生20名、5年生23名、6年生9名、無記入2名となっています。

1. シルク会館にきたことがありますか？

出席者の87.4%（47名）が今回初めて来たと回答しています。3学年ともほぼ同様です。



「来たことがある」と「初めて」は、入場料の有無など単純には比較できないものの、昨年の野毛山動物園の授業とは全く逆の回答結果となりました。

(グラフ単位：% 以下同じ)

2. シルク博物館に興味がありましたか？

全体の88.8%（48名）が興味があったと回答しています。興味がわかかなかったと回答したのは4年生では1人、5年生では3人、6年生、0人、無記入では1人とそれぞれの学年で少数います。

3. シルク（絹）のもとになるマユはカイコが作ることがわかりましたか？

全員がわかったと回答しています。

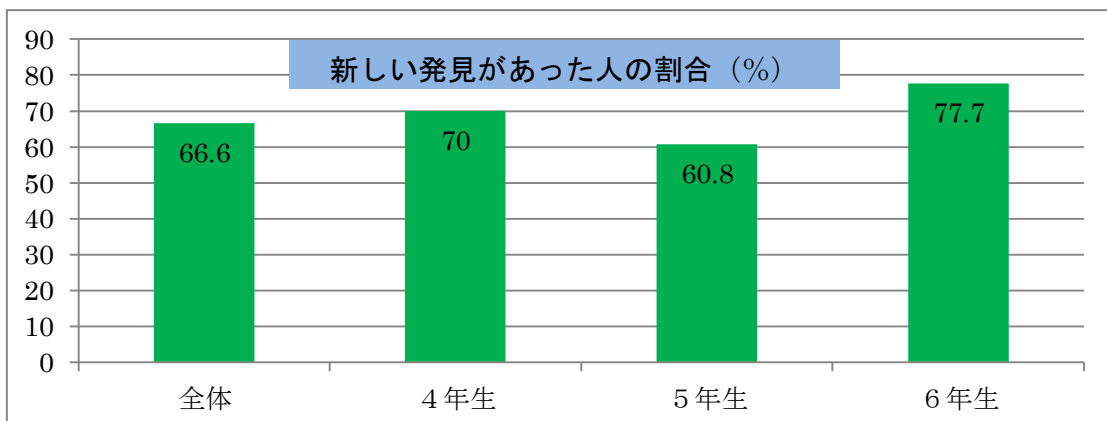
4. カイコがどうやってマユを作るかわかりましたか？

質問3と同様に、全員がわかったと回答しています。

5. 今回の体験・見学での新しい発見がありましたか？

36名（66.6%）が今回の見学・体験授業で新しい発見があったと回答しています。

学年別には4年生14名、5年生14名、6年生7名、学年無記入者1名です。



カイコ（蚕）、マユ（繭）、シルク（絹）のそれぞれについて新しい発見があったと記入されています。

- ・ シルクが昔からあったということ
- ・ 蚕の糸で服を作っていること
- ・ シルクのことがよくわかった
- ・ 繭を使って服を作っていること
- ・ 蚕の成長の仕方
- ・ いろいろな蚕の種類と糸の色について
- ・ 蛾が繭の中から出てくるときに、濡らして、やわらかくしてから頭で破ってでてくること
- ・ 蚕が糸を作ること
- ・ 蚕のふしぎや繭の種類などがいろいろわかった
- ・ 繭を作る前に、糸を回りにつけてから、頭を8の字の形で、体の回りに張り付けること
- ・ 蚕は30日間ぐらいしか生きられないこと、また、人間がいないと生きていけないこと
- ・ 蚕がどんどん皮を脱いでいくこと
- ・ 繭の色がいろいろあったこと
- ・ ソファ、ざぶとんに使われる布もシルクが使われること
- ・ 蚕の一生、蚕の意味について
- ・ カイコ→桑蚕の字を初めて知った
- ・ 蚕が糸をはく理由について
- ・ 蚕の蛾は羽があっても飛べないこと、生まれたばかりの体重×10,000もあること
- ・ 蚕の繭の利用の仕方について
- ・ 繭には白色だけではなく、緑色もあること
- ・ 繭の中での成長の仕方、繭の太さと長さについて
- ・ 蚕は繭を作って、その繭で糸ができる、繭の中で一生を終える、蚕から蛾になること
- ・ シルクの洋服などはたくさんの繭が使われていて、たくさんの蚕の命が使われているので大切にしないといけないと改めて思った
- ・ 蚕の成長、日本が世界で一番蚕がいるということ
- ・ 蚕の糸の細さ
- ・ 蚕は完全な家畜で様々な種類があること
- ・ 繭を作るのに、とても時間がかかること
- ・ 科学生物などと融合させて、蛍光の糸が作れること
- ・ 蚕は生まれてから5歳までで重さは10,000倍になること
- ・ 蚕は吐糸口というところから糸を出すこと、蚕の繭には長い歴史があること
- ・ 繭は見た目ではやわらかいイメージがあったけれど、実際触ってみたら丈夫なこと
- ・ 蚕の糸が何種類もあるのがすごいと思った
- ・ 家畜というのは犬や猫、豚、牛のようなものが思い浮かぶけど、蚕も家畜にされていたので、びっくりした
- ・ 蚕は天からのプレゼントなのではないかと思っていたから、それほどすごいんだなと思った
- ・ 糸取りについて
- ・ 蚕を前に一回飼っていたけど、赤ちゃん（毛蚕：けご）の時から一万倍も体重が増えるのは知らなかったから、びっくりした
- ・ 初めて来たので、全てが発見でした



スタッフミーティングから

横浜発展のもとになったシルク。訪れたことがない子どもたちが多くて意外でした。またカイコにとっても興味を持って聞いていたことが印象的でした。子ども大学のために準備くださった坂本館長さん、シルク博物館の皆様、ありがとうございました。また雨の中、付き添ってくださった保護者の皆様、感謝申し上げます。

子ども大学よこはまでは、これからも教育関係者や専門家にもご協力を仰ぎながら授業運営を行って参ります。



☆ミーティングは、保護者の方、活動に参加してみたい方も参加OKです。

日程は、基本的に土曜日の午後 13:30～、桜木町・横浜市市民活動支援センター（4階または5階）で行っています。日程が変更になることもございますので、事前にご連絡ください。

今年度も、授業の感想文を募集します！

学生の皆さんは授業を通して、どんなことを学び、考えたでしょうか？

1年間の授業が終わったら、

- ・心に残った授業やおもしろかった授業の感想
 - ・1年間を通して自分で考えたこと
 - ・自分でさらに調べたこと
 - ・授業について友だちや家族と話したこと
- など、感想文にしてまとめてください。まとめた感想文集は学生の皆さんにお渡します。
400字詰め原稿用紙1枚程度（B4サイズ、たて書き、紙は横長）

※締切などくわしいことはあとでお知らせします。



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

特定非営利活動法人子ども大学よこはま 〒226-0027 横浜市緑区長津田 1-22-2-38

電話 090-3903-6875 EMAIL inform@kodomodaigaku-yokohama.com

<http://www.kodomodaigaku-yokohama.com/>

<https://www.facebook.com/kodomodaigakuyokohama>